

とおちっ子

十市小学校だより第34号

令和7年1月15日

文責 藤川 尚司

3学期が始まって1週間がたちました。この間、とても寒い日が続きました。朝のあいさつで、「寒いね」が決まり文句となっている毎日です。今しばらく寒さの厳しい日が続くことでしょう。それでも元気に登校してくれる子どもたちをうれしく思います。

ところで、始業式では恒例の6年生による児童代表のあいさつがありました。十市小学校を代表する6年生として、最後の学期をしっかりと締めくくりたいという気持ちの現れたあいさつでした。6年生と過ごすのもあと少しです。よい思い出の残る3学期にしましょう。



岩沼市交流防災学習

1月9日(木)に、6年生が岩沼市の玉浦小学校と、防災学習を題材にしたオンライン交流を行いました。

宮城県岩沼市と南国市は、空港のあるまち同士というご縁で、約50年前に姉妹都市となりました。以来、今日まで、いろんな交流活動が進められ、毎年相互訪問が行われています。

2011年に発生した東日本大震災では、姉妹都市である南国市は、大きな被害を受けた岩沼市の支援にすぐ乗り出したそうです。被災直後から現地へ赴き、必要なサポートに尽力したと聞いています。それ以降、両市の関係はより深まり、防災を視点とした交流は両市をつなぐ重要なテーマとなっています。今回の本校と玉浦小学校の交流は、その一環ともなるものです。

交流学習では、オンラインで両校を結び、お互いの学校で行われている防災学習の成果などを紹介し合いました。まずは、玉浦小学校からの発表を見せてもらいました。玉浦小学校周辺の東日本大震災による被害の状況に始まり、被災経験を教訓にして現在行っている防災学習の内容や年間18回も行っている避難訓練の様子などを紹介してくれました。玉浦小の仲間の「東日本大震災のことを伝えていくこと」を大切にしているという話が印象的でした。6年生は、オンラインで画面に示された画像を食い入るように見つめて、発表に聞き入っていました。

続いて十市小学校の番です。「自分の命を守り、生き延びること」をテーマとし、南海トラフ大震災に備えた防災学習について、玉浦小学校の皆さんに紹介をしました。地震について学習したことや避難訓練の様子、防災グッズを作成したことなど、十市小学校での取組を余すところなく伝えました。

秀逸だったのは、役割を分担しあい、全員が何らかの発表を先方に届けたことです。以

前の本紙でも紹介しましたが、6年生はこれまでの学習で身につけたプレゼンテーションの力量を如何なく発揮していました。内容は言うまでもなく、堂々として情報発信をする姿には舌を巻きました。

大きな災害を乗り越え、経験を伝えて学び続ける岩沼市の仲間の姿勢に深く敬意を表したいと思います。だからこそ我々は、来る日に備えて、ともに学び続けなければならないと、改めて感じた交流学習でした。



感染症に注意を

秋以降、たびたび紙面でも触れてきましたが、依然として全国的に感染症の流行がおさまらない状況が続いています。特に、インフルエンザについては例年の2倍程度の感染者が見られるとのことで、注意が必要です。

現在、学校では学級や学年が分散してインフルエンザに罹患した児童が見られます。また、その他の感染症に罹患した児童が、数名見られます。今のところ感染拡大の状況はありませんが、油断はできません。

手洗いやうがいなどの基本的な防止策を励行したり、基本的な生活習慣を守ったりする以外に有効な手立てはありませんが、お互いに気を付け合って、感染拡大防止に努めましょう。